

**2019年06月11日（火）【外為L a b】松田哲**  
**タイトル：【福岡G20財務相・中央銀行総裁会議】**

日本初開催のG20財務相・中央銀行総裁会議が福岡で行われ、9日に閉幕した。

共同声明では、世界経済が抱える下振れリスクに貿易摩擦の激化を挙げたうえで、「G20はこれらのリスクに対処し続けるとともに、さらなる行動をとる用意がある」とし、各国が協調して対応することを訴えた。

会議では、米中の貿易摩擦に対する懸念の声が、参加各国から出た様子だ。

しかしながら、共同声明では、具体的に米国、中国の名前は出ておらず、結果的には、中途半端で、あいまいな共同声明になった印象だ。

結局のところ、今回の福岡G20は、米国にも、中国にも、具体的な影響を与えることは無い、と言って良い。

米中貿易摩擦問題に関して、現実を見るならば、米国が、あらゆる意味での決定権を握っている、と言って良いのだろう。

今回の福岡G20における日本の立場は、「議長国として、米中貿易摩擦問題を解決に導く」ということだから、実質的には、何も解決できずに、具体的な進捗も無く、完全に失敗に終わった、ということだろう。

ただし、世界中のどこからも、そのような非難・批判は見られない。

それも当然だろう。

現時点での、米国の貿易摩擦への対応（制裁的な関税）に、面と向かってクレームをつけることが、難しいのは、当然だからだ。

米国に対して報復関税を課している中国にも、同様に、面と向かって善処を促すことは、非常に難しいだろう。

つまり、結論として、今回の福岡G20では、問題点を指摘したが、具体策は何も示すことができなかった、ということだ。

以下、個人的な感想だが、毎回、開催国では多額の費用をかけて警備を行い、せっかく各国の首脳が集まっているのだから、もっと具体的な成果を求めるべきだ、と考える。

問題点を指摘するだけでも、それなりの意義が有るのだろうが、毎回、抽象的な声明を出して、ごまかしているだけで、何も変わらない（何も起こらない）。

G20を開催したこと、ただ会議を行ったことを讃えているに過ぎない。

政治的なパフォーマンスに過ぎない。政治ショーと言っても過言ではない。

G20という会合を、やらないよりは、やった方が良いでしょうが、あまりの形骸化に、その存在意義を疑問視してしまうのは、私だけではないのだろう。

+++++

(2019年06月11日東京時間15:00記述)